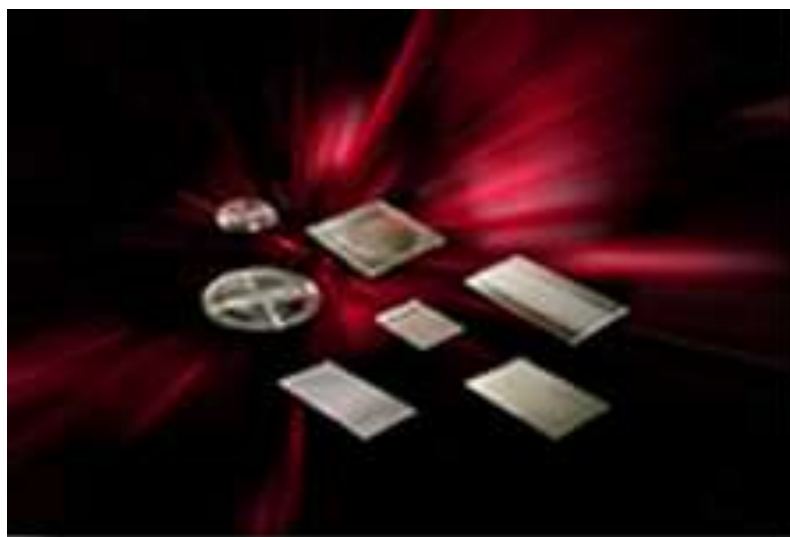


# 環境活動レポート

2017 年度版

(2017 年 6 月～2018 年 5 月)



2018 年 7 月発行



目次

1. 経営理念 環境方針.....	1
1-1. 経営理念 .....	1
1-2. 環境方針 .....	1
1-3. リサイクル・リユース .....	1
2. 事業活動の概要.....	2
2-1. 事業活動の概要.....	2
2-2. 事業所名および代表者名 .....	2
2-3. 所在地.....	2
2-4. 環境管理責任者氏名および連絡先.....	2
2-5. 事業の規模.....	2
2-6. 認証・登録の対象組織・活動 .....	2
3. 組織.....	3
3-1. 実施体制図.....	3
3-2. 各役割の責任と権限 .....	3
4. 環境目標とその実績.....	4
4-1. 目標値と実績値.....	4
5. 環境活動の取り組み結果とその評価.....	5
5-1. 歩留(直行率)向上 .....	5
5-2. 二酸化炭素排出量削減.....	6
5-3. ゴミ排出量削減.....	7
5-4. 水使用量 .....	8
5-5. 化学薬品使用量.....	10
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無.....	11
7. 地域環境活動への参加 .....	11
8. 代表者による評価 .....	12



## 1. 経営理念 環境方針

### 1-1. 経営理念

#### 「本物を創る」

日本特殊光学樹脂株式会社は、「本物を創る」という社訓のもと、社員が一丸となって、「本物」のモノづくりに取り組んでいます。他ではできない、最高の品質・性能の製品生産を日々追求し、常に工夫を、挑戦を、忘れずに、最先端の加工技術で、お客様のご要望にお応えします。

同時に地球環境への配慮、個人情報保護など、「本物」を創造する企業に必要な要素も経営の最重要課題の中にあげ、「本物の町工場」を目指す。それが日本特殊光学樹脂株式会社の経営です。

### 1-2. 環境方針

NTKJは高度な製品を世に送り出すとともに、地球環境の保全にも取り組み、豊かで快適な地球環境を次世代に引き継いでいくことを責務と考え、以下環境方針を定め、企業として社会に貢献していきます。

事業活動に伴う環境負荷を最小にするために、次の取り組みを行います。

- ・生産工程における歩留向上
- ・二酸化炭素排出量の削減
- ・排出物の分別による再資源化と廃棄物の削減を推進
- ・節水による水使用量の削減
- ・グリーン購入の促進
- ・化学薬品類の管理の徹底

事業活動に伴う環境関連法規等を順守します

- ・地域活動における環境活動に参加し、社会貢献活動を推進します。
- ・教育・訓練により、従業員の環境に関する知識と意識を高めます。
- ・環境方針を公開し、全従業員に周知します。

### 1-3. リサイクル・リユース

当社からの廃棄物を極力低減し、リサイクル活動に努めます。

- ・プラスチック原材料のリサイクル・リユース
- ・金型原材料のリサイクル・リユース
- ・産業廃棄物の分別による資源のリサイクル

従業員の環境への意識を高め、全員で環境問題に取り組めます。

2011年1月5日制定  
代表取締役 佐藤公一



## 2. 事業活動の概要

### 2-1. 事業活動の概要

日本特殊光学樹脂株式会社 (NTKJ) は、高精度プラスチックレンズメーカーとしてフレネルレンズ、レンチキュラーレンズ、平面プリズム、リニアフレネルレンズ、フライアイレンズ、導光板、非球面レンズなどプラスチック製光学部品に関して、小型の製品から、超大型の製品まで特殊レンズの製造・販売を行っております。

### 2-2. 事業所名および代表者名

事業所名： 日本特殊光学樹脂 株式会社  
代表者名： 佐藤 公一

### 2-3. 所在地

本社： 東京都板橋区蓮根 2-16-10  
熊谷工場： 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原 138-6

### 2-4. 環境管理責任者氏名および連絡先

責任者： 関谷 忠明  
副責任者： 八須 洋輔  
連絡先： [info@ntkj.co.jp](mailto:info@ntkj.co.jp)

### 2-5. 事業の規模

資本金： 1000 万円  
従業員数： 27 人 (2018 年 6 月時点)  
設立： 1978 年 6 月 (昭和 53 年)  
工場延べ床面積： 7700m<sup>2</sup>

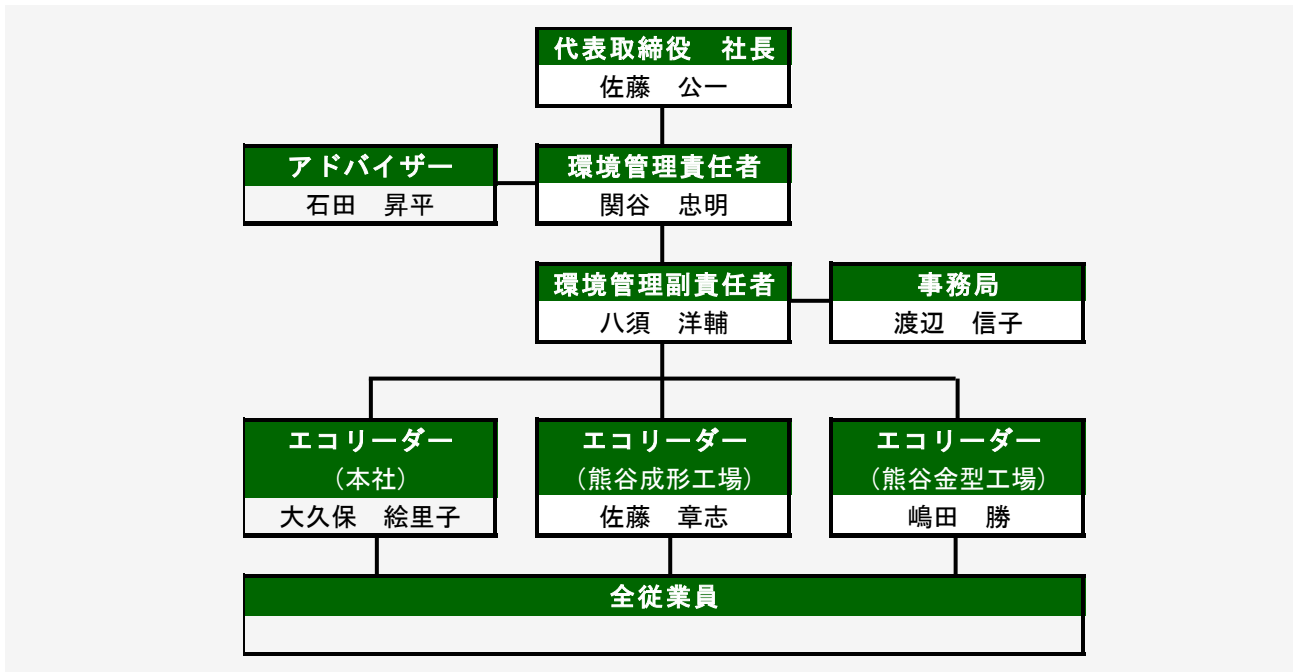
### 2-6. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 日本特殊光学樹脂株式会社  
関連事業所： 本社事務所  
熊谷工場  
活動： プラスチックレンズ及び金型の製造販売



### 3. 組織

#### 3-1. 実施体制図



#### 3-2. 各役割の責任と権限

役割	主な責任と権限
社長	1. 環境方針の制定 2. 環境責任者の指名 3. 経営資源（人、設備、情報等）の提供 4. EA21取組状況の評価と改善指示 5. 環境目標、環境活動計画書策定時の承認
アドバイザー	1. 社内の環境保全活動に関して助言を行う 2. EA21の運用/活動に関して助言を行う
環境管理責任者	1. EA21の構築と運用 2. 遵法性評価 3. 環境目標と活動計画の実施状況の検討 4. コミュニケーション記録、是正・予防記録の承認 5. 社長にEA21の運用状況の報告 6. 手順書の承認
環境管理副責任者	1. 環境管理責任者に準ずる責任と権限を事業所ごとに負う 2. 環境管理責任者への報告
エコアクション事務局	1. 文書の管理 2. 定例会議開催の案内と議事録の作成 3. 環境に関するデータのまとめ 4. 対外部の窓口 5. 組織変更時の官公への届出
エコリーダー	1. 自部門に関する目標、活動計画の実施責任 2. EA21の周知、徹底と教育の計画 3. 活動計画の討議、目標のフォロー 4. 事務局業務（文書管理、対外部窓口） 5. 是正・予防の対策立案と実施責任者 6. 緊急事態の訓練責任者
一般従業員	1. 自部門に関する目標、活動計画の実施 2. 緊急事態への対応 3. 教育訓練の受講 4. 省エネ、分別排出、薬品管理等、決められた事の実施



## 4. 環境目標とその実績

### 4-1. 目標値と実績値

生産量増加により使用エネルギーが増加したため、生産量の統計がとれている2014年度を基準年度とし各項目で原単位を計算。

中長期目標として「2020年度までに各項目を50にする」と新たに目標を設定した

項目	中長期目標	原単位計算対象値	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
歩留(直行率)向上	2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50にする	購入量÷生産量	目標値	[%]	100	92	83	75	67	58	50
			原単位換算値	[%]	100	87	61	56			
二酸化炭素排出量		二酸化炭素排出量÷売上高	目標値	[%]	100	92	83	75	67	58	50
			原単位換算値	[%]	100	80	95	82			
		実績値	[Kg-CO2/百万円]	2188	1749	2081	1783				
ゴミ排出量		ゴミ排出量÷売上高	目標値	[%]	100	92	83	75	67	58	50
			原単位換算値	[%]	100	88	72	51			
		実績値	[Kg/百万円]	11.9	10.5	8.6	6.1				
水使用量		水使用量÷売上高	目標値	[%]	100	92	83	75	67	58	50
			原単位換算値	[%]	100	79	102	67			
	実績値	[m3/百万円]	2.59	2.05	2.65	1.73					
化学薬品使用量	化学薬品購入量÷生産量	目標値	[%]	100	92	83	75	67	58	50	
		原単位換算値	[%]	100	118	76	86				
	実績値	[kg/t]	40.9	48.2	31.1	35.0					
地域環境活動	継続して地域活動に参加する		実績値		参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加
			目標値		2件参加	2件参加	2件参加	2件参加			



## 5. 環境活動の取り組み結果とその評価

### 5-1. 歩留(直行率)向上

歩留では端材などがあり指標として適さないの、より直接的な数値として直行率を[生産量/材料購入量]と定義し、2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50にする、と改めた。

#### ■主な取り組みと効果/進捗

大項目	主な取り組み	実施状況	効果や進捗など
歩留(直行率)向上	良品率の向上	○	良品率向上
	原反からの取り数の効率化	○	端材の活用を意識した
二酸化炭素排出量削減	成形室の空調の効率化	×	配置/配管等を検討中
	主要箇所(LED)化	○	LEDに交換済み
ゴミ排出量削減	廃梱包資材のリサイクル業者への売却	○	業者にて回収
	自販機購入者は自販機回収BOXを利用	○	引き続き実行する
	簡易梱包化	△	内装の簡略化が未達成
水使用量	毎週の使用量の確認と速報値の掲示	×	未実施
化学薬品管理	リスクアセスメント	△	担当者決定 全社展開中

#### ■実績値

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
目標値 [%]	100	92	83	75
原単位 [%]	100	87	61	56



#### ■評価

端材が活用を意識した取り方にしたことは評価できる。また、良品率も向上したこと評価する。ただ、良品率はもう少し向上できる見込みがあると思うので、次年度はさらに期待する。

#### ■次年度の取り組み

・良品率の向上

**5-2. 二酸化炭素排出量削減**

[二酸化炭素排出量/売上高]で「売上高当たりのCO2排出量を算出。これを指標とし、2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50とする。

**■主な取り組みと効果/進捗**

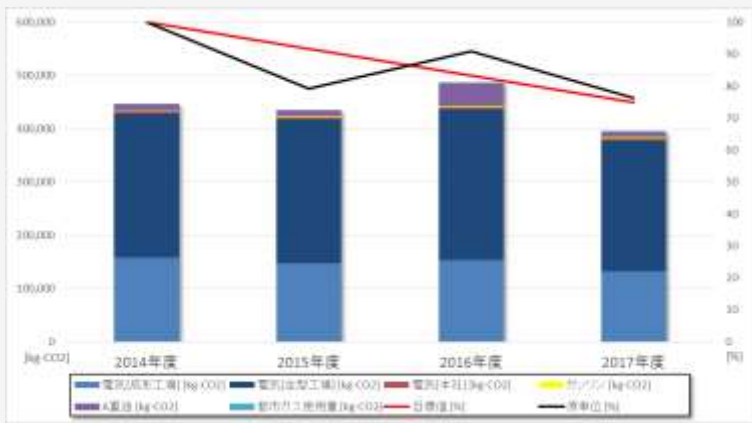
大項目	主な取り組み	実施状況	効果や進捗など
歩留(直行率)向上	良品率の向上	○	良品率向上
	原反からの取り数の効率化	○	端材の活用を意識した
二酸化炭素排出量削減	成形室の空調の効率化	×	配置/配管等を検討中
	主要箇所のLED化	○	LEDに交換済み
ゴミ排出量削減	廃梱包資材のリサイクル業者への売却	○	業者にて回収
	自販機購入者は自販機回収BOXを利用	○	引き続き実行する
	簡易梱包化	△	内装の簡略化が未達成
水使用量	毎週の使用量の確認と速報値の掲示	×	未実施
化学薬品管理	リスクアセスメント	△	担当者決定 全社展開中

**■実績値**

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
目標値	[%]	100	92	83	75
原単位	[%]	100	79	91	76
電気[成形工場]	[kg-CO2]	158,043	147,689	154,013	131,856
電気[金型工場]	[kg-CO2]	270,079	269,885	282,170	245,883
電気[本社]	[kg-CO2]	4,523	4,292	4,366	3,838
ガソリン	[kg-CO2]	2,032	1,906	1,836	1,958
A重油	[kg-CO2]	10,839	10,839	43,354	10,839
都市ガス使用量	[kg-CO2]	344	262	363	404
CO2排出量 合計	[kg-CO2]	445,860	434,872	486,102	394,778
売上高	[百万円]	191	235	229	221
<b>売上高当たりのCO2排出量</b>	<b>[Kg-CO2/百万円]</b>	<b>2339.23</b>	<b>1851.46</b>	<b>2125.22</b>	<b>1783.45</b>

※年度別 購買電力の排出係数

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
排出係数	[kg-CO2/kWh]	0.496	0.491	0.474	0.459
電力会社		東京電力	東京電力	東京電力	ENEOSでんき







■評価

LED化の効果が出ているように思える。空調は従業員の負荷も考えた時に、早急に実行に移すこと。

■次年度の取り組み

・成形室の空調(温度)の効率化

5-3. ゴミ排出量削減

[ゴミ排出量/売上高]で「売上高当たりの廃棄物排出量」を算出。これを指標とし、2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50とする。

■主な取り組みと効果/進捗

大項目	主な取り組み	実施状況	効果や進捗など
歩留(直行率)向上	良品率の向上	○	良品率向上
	原反からの取り数の効率化	○	端材の活用を意識した
二酸化炭素排出量削減	成形室の空調の効率化	×	配置/配管等を検討中
	主要箇所のLED化	○	LEDに交換済み
ゴミ排出量削減	廃梱包資材のリサイクル業者への売却	○	業者にて回収
	自販機購入者は自販機回収BOXを利用	○	引き続き実行する
	簡易梱包化	△	内装の簡略化が未達成
水使用量	毎週の使用量の確認と速報値の掲示	×	未実施
化学薬品管理	リスクアセスメント	△	担当者決定 全社展開中

■実績値

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
目標値	[%]	100	92	83	75
原単位	[%]	100	88	72	51
一般廃棄物総排出量	[kg]	2,268	2,464	1,964	1,340
売上高	[百万円]	191	235	229	221
売上高当たりの廃棄物排出量	[Kg/百万円]	11.90	10.49	8.59	6.05





■評価

廃梱包資材のリサイクルの効果が大きいと考える。但し、業者の引取りも永続的に続くとは限らないので、梱包資材の簡略化は引き続き検討すること。

■次年度の取り組み

・簡易梱包化

5-4. 水使用量

〔水使用量/売上高〕で「売上高当たりの水使用量」を算出。これを指標とし、2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50とする。

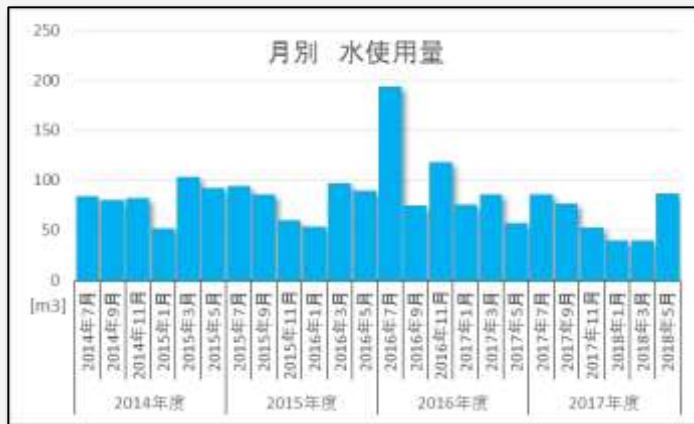
■主な取り組みと効果/進捗

大項目	主な取り組み	実施状況	効果や進捗など
歩留(直行率)向上	良品率の向上	○	良品率向上
	原反からの取り数の効率化	○	端材の活用を意識した
二酸化炭素排出量削減	成形室の空調の効率化	×	配置/配管等を検討中
	主要箇所のLED化	○	LEDに交換済み
ゴミ排出量削減	廃梱包資材のリサイクル業者への売却	○	業者にて回収
	自販機購入者は自販機回収BOXを利用	○	引き続き実行する
	簡易梱包化	△	内装の簡略化が未達成
水使用量	毎週の使用量の確認と速報値の掲示	×	未実施
化学薬品管理	リスクアセスメント	△	担当者決定 全社展開中

■実績値

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
目標値	[%]	100	92	83	75
原単位	[%]	100	79	102	67
水使用量	[m <sup>3</sup> ]	493	481	606	383
売上高	[百万円]	191	235	229	221
売上高当たりの水使用量	[m <sup>3</sup> /百万円]	2.59	2.05	2.65	1.73





週単位での使用量の調査は未実施だが、2016年の異常な増加について調査した。(上記グラフ参照)2016年5月～7月にかけて、水を大量に使用しながら製作する案件があったため2016年7月の検診にて異常な増加を示した。なお、この案件の売上は年度内でも上位の案件である。また、2017年末に受水槽前のポンプが故障していることが判明し、常時漏れが起こっていた可能性あり。2018年の年初から漏れを最小限にとどめるようなポンプの暫定運転を実施し2018年4月に修理完了。次年度以降、使用量の低下が見込める。

#### ■ 評価

受水槽前のポンプの故障がなぜ長年発見できなかったか。日常点検に反映させて、故障の早期発見を促すこと。また、2016年の使用量については承知した。ただし、もう少し使用量が減らせなかったのか？案件の見積の反映できていたのか？を精査し、次回同様の案件の時に反映させること。

#### ■ 次年度の取り組み

・各箇所の点検の日常化



### 5-5. 化学薬品使用量

[化学薬品購入量/生産量]で「生産量当たりの化学物質使用量」を算出。これを指標とし、2014年度を100とした時の原単位を2020年度までに50とする。

#### ■主な取り組みと効果/進捗

大項目	主な取り組み	実施状況	効果や進捗など
歩留(直行率)向上	良品率の向上	○	良品率向上
	原反からの取り数の効率化	○	端材の活用を意識した
二酸化炭素排出量削減	成形室の空調の効率化	×	配置/配管等を検討中
	主要箇所のLED化	○	LEDに交換済み
ゴミ排出量削減	廃梱包資材のリサイクル業者への売却	○	業者にて回収
	自販機購入者は自販機回収BOXを利用	○	引き続き実行する
	簡易梱包化	△	内装の簡略化が未達成
水使用量	毎週の使用量の確認と速報値の掲示	×	未実施
化学薬品管理	リスクアセスメント	△	担当者決定 全社展開中

#### ■実績値

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
目標値	[%]	100	92	83	75
原単位	[%]	100	118	76	86
生産量当たりの化学物質使用量	[kg/t]	40.9	48.2	31.1	35.0



#### ■評価

リスクアセスメントの全社展開を行うこと。また、現場での作業を見ていると余分に使用している様に見受けられるので、いかに少ない使用量でより多く生産できるよう原因を究明し対策を実施すること。

#### ■次年度の取り組み

・化学物質の効率的な使用



## 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境法規制違反はありません。

法規等名称	遵守事項(規制内容)	遵守状況
廃棄物処理法	廃棄物処理処理契約書、委託先業者の許可証確認	○
	マニフェスト伝票の照合確認	○
	マニフェスト交付状況報告	○
家電リサイクル法	廃棄時にリサイクル業者へ渡したか(今年は廃棄なし)	○
下水道法	排水基準の遵守	○
浄化槽法	定期点検実施	○
フロン排出抑制法	定期点検実施	○
	マニフェスト伝票の照合確認	○
消防法	消防設備定期点検実施	○
騒音規制法	非該当地域	○
振動規制法	非該当地域	○
悪臭防止法	規制区域内	○

## 7. 地域環境活動への参加

毎年2回実施される工業団地内のゴミゼロ運動に参加し、工業団地内のゴミを収集

・2017年11月



・2018年5月





## 8. 代表者による評価

### ■環境管理責任者の総合コメント

- ・基準値をほぼ売上比率とした。化学物質使用量のみ生産量比率とした。
- ・全体的に売り上げ及び生産量を増やさないと目標への到達は難しい。
- ・法令順守、問題なし。
- ・新規採用従業員への教育及び全従業員への活動報告兼教育、問題なし。
- ・2017年度版移行審査のための準備を進める
- ・審査を受ける時期をずらすための計画を考える

### ■代表者の総合コメント

- ・基準値を売上比率及び生産量比率にし、指標が単純化し見易くなったことは評価する
- ・無駄を省いて、売上・出荷を向上させる施策を継続的に実施しましょう
- ・年初などに教育を実施していることは継続させてもらいたい
- ・審査時期はタイムリーにレポートを発行する上でも、実施してもらいたい
- ・環境負荷を低減させるためにも設備の維持管理、更新などを計画的に実施しましょう。

**エコアクション21 環境活動レポート 2017 年度版**

**Vol.1.1**

活動期間	2017 年 6 月 1 日～2018 年 5 月 31 日
発行年月	2018 年 7 月
発行元	日本特殊光学樹脂株式会社
次回発行	2019 年 7 月予定